

①吹田市のまちづくりに関する 市民アンケート

【実施期間】

令和4年(2022年)9月1日～16日

【調査対象及び回答結果】

無作為抽出による吹田市在住者 3,000人
有効回答数 1,102件、有効回収率 36.9%

【調査項目】

- 1 コロナや社会状況の変化による生活の変化
- 2 SDGsの認知度、注力すべきゴール
- 3 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

【取組の特徴】

依頼ハガキに記載のQRコード、URLからサイトに接続し回答。オンラインで実施することで、若年層からより多くの回答を得ることを狙いとしました。(希望者へは紙調査票を送付し対応。)

▼アンケート依頼ハガキ



②商業施設アンケート

【実施日・場所】

令和4年(2022年)10月25日 13時～19時 イオン吹田店
令和4年(2022年)11月11日 13時～19時 イオン北千里店
令和4年(2022年)11月23日 10時～17時 ららぽーとEXPOCITY

【調査対象及び回答結果】

商業施設来場者
パネルアンケート 522件、タブレットアンケート 269件

【調査項目】

- 1 あなたがSDGsで重視するゴール(パネルアンケート)
- 2 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(タブレットアンケート)

【取組の特徴】

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートでは声が拾いにくい世代(主に20～40代)からの意見把握を目的に、商業施設に出向いてアンケートを実施。

③吹田市のまちづくりに関する 大学生アンケート

【実施日・場所】

令和4年(2022年)12月5日 関西大学
令和4年(2022年)12月13日 大阪学院大学

【調査対象及び回答結果】

関西大学及び大阪学院大学の学生
(両大学で行った吹田市企画財政室による講義の受講生)
有効回答数 178件

【調査項目】

総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

【取組の特徴】

吹田市企画財政室による講義の機会を利用して、大学生からまちづくりに関する若い世代の意見を聴取。

参考:吹田市職員アンケート

【実施期間】

令和4年(2022年)9月7日～9月21日
令和4年(2022年)10月5日～10月25日

【調査対象及び回答結果】

吹田市職員
有効回答数 629件

【調査項目】

- 1 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度
- 2 SDGsの認知度、注力すべきゴール

【取組の特徴】

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと同様の設問で、本市職員に対し、アンケート調査を実施。施策推進に関する捉え方について市民と職員で比較。

第4次総合計画見直しに係る市民参画・周知の取組報告概要版

アンケート調査の結果概要(抜粋)

■①～③のアンケートに共通して、「19の「めざすまちの姿」が、どれだけ実現に近づいていると思うか」の設問を設定した。
 ○①のアンケートでは、「15. 安全・快適な都市を支える基盤づくり」の評価が最も高かった。
 ○複数のアンケートに共通して評価が高かったのは、「14. みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」(①②)「17.文化・スポーツに親しめるまちづくり」(②③)であった。
 ○反対に、共通して評価が低かったのは、「2. 市民自治によるまちづくり」(①②③)「3. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり」(②③)であった。
 ○なお、市職員アンケートでは、「15. 安全・快適な都市を支える基盤づくり」の評価が最も高く、「2. 市民自治によるまちづくり」が最も低かった。

①市民アンケート

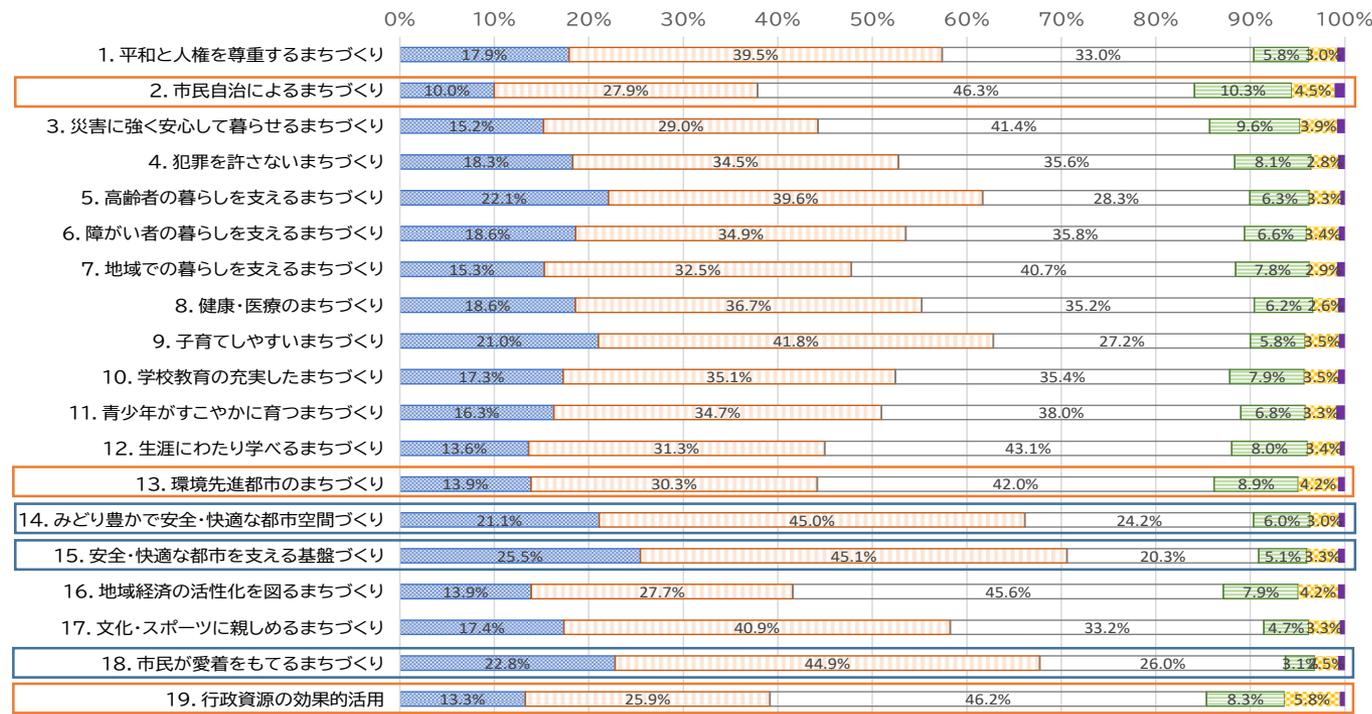
②商業施設アンケート

③大学生アンケート

高評価	「15. 安全・快適な都市を支える基盤づくり」(70.6%)	「18.市民が愛着をもてるまちづくり」(81.4%)	「1. 平和と人権を尊重するまちづくり」(85.4%)
	「18. 市民が愛着をもてるまちづくり」(67.7%)	「14. みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」(79.6%)	「17.文化・スポーツに親しめるまちづくり」(85.4%)
	「14. みどり豊かで安全・快適な都市空間づくり」(66.2%)	「17. 文化・スポーツに親しめるまちづくり」(79.2%)	「6. 障がい者の暮らしを支えるまちづくり」(84.8%)
			「9. 子育てしやすいまちづくり」(84.8%)

低評価	「19. 行政資源の効果的活用」(39.2%)	「16. 地域経済の活性化を図るまちづくり」(54.3%)	「3. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり」(73.0%)
	「2. 市民自治によるまちづくり」(37.8%)	「2. 市民自治によるまちづくり」(56.9%)	「4. 犯罪を許さないまちづくり」(74.7%)
	「13. 環境先進都市のまちづくり」(44.2%)	「3. 災害に強く安心して暮らせるまちづくり」(57.2%)	「2. 市民自治によるまちづくり」(79.2%)

参考：①吹田市のまちづくりに関する市民アンケートにおける「めざすまちの姿」に対する評価



■ そう思う □ どちらかというと思う □ どちらとも言えない □ どちらかというと思わない ✕ そう思わない ■ 無回答

第4次総合計画見直しに係る市民参画・周知の取組報告概要版

④ #2050すいたストーリー

【実施期間】

令和4年(2022年)10月15日～12月31日

【対象及び応募結果】

吹田市に関心がある方

258件(千里高校でのプレ企画(令和4年(2022年)6月実施)含む)

【募集テーマ】

あなたの思い描く2050年のすいた

【取組の特徴】

20歳代以下の若い世代から吹田市の将来についての意見聴取及び第4次総合計画見直しに向けた機運醸成のため、「#2050すいたストーリー」と題して募集。

(市HPの専用回答フォームもしくはTwitterから)

千里高校では、「2050年のある日、吹田市に暮らす私の日記」として募集。

▼募集ポスター



投稿の一例(抜粋し一部加工)

#2050すいたストーリー

子供から高齢者まで安心して暮らせるような、ずっと住み続けたいと思えるような吹田市であってほしい。

#2050すいたストーリー

老若男女問わず、みんなが住みやすい環境であり、少子高齢化が進む中、吹田市は将来を担う子供たちで賑わっているまちであってほしい。

【2050年のある日、吹田市に暮らす私の日記】

吹田市では各家庭に、子供の教育のための支援金が配られている。そのおかげで子供を持つ人が増え、少子高齢化の問題も解消されつつある。子どもたちがストレスなく元気に暮らせる素晴らしい街になった。

⑤ 総合計画PR動画

【公開期間】

令和4年(2022年)10月15日～
第4次総合計画期間終了まで(予定)

【動画の概要】

- 1 市長メッセージ(令和4年(2022年)11月30日まで) ▲動画サムネイル(第4次総合計画改訂に当たって)
- 2 総合計画ってなに?スイタローが説明します
- 3 8つのテーマ(大綱)ごとの動画

【視聴状況】

2,670回(令和5年(2023年)2月時点)

【取組の特徴】

総合計画を知ってもらうきっかけとなるよう、キャラクターを使用した親しみやすい動画を作成し、YouTubeの吹田市動画配信チャンネルで公開。



⑥ 市民公益活動団体ワークショップ

【実施日】

令和5年(2023年)2月13日

【対象と参加人数】

吹田市内で活動する市民公益活動団体
19人(18団体)

【意見交換テーマ】

- ① コロナの拡大の影響など、活動する中で感じた変化
行政とは異なる視点から見たトピックス
- ② 行政と市民公益活動団体がさらに協働しながら進めたいこと

【取組の特徴】

さまざまな分野と現場で活動を展開している市民公益活動団体から、コロナの影響を受けて活動の中で感じた変化や、行政とは異なる視点から見える市民目線での意見を、ワークショップ形式で聴取。

第4次総計見直しに向けた市民公益活動団体ワークショップ 取組報告

グループ/ テーマ	課題	協働しながら進めたいこと
グループ1 大綱1 人権・ 市民自治	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に制限（人数制限、中止、換気・消毒、活動拠点不足、人材不足等） ・デジタルデバイドの発生（オンライン活動への対応、情報の取り方に差） ・行政と市民の間にギャップ（活動の大切さ、課題の捉え方、行政の役割と活動内容の乖離、立場が対等ではない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民が交流できる場について協働で考える ・市民の意見などを広く収集して、市政に反映させる ・市民による市政の評価制度や市民活動団体の課題・成果を公表する仕組みづくり
グループ2 大綱3 福祉・ 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に制限（イベント参加者減、配付物等への懸念、オンラインの限界、活動ができない等） ・高齢化に伴う問題（孤立化、認知症の高齢者が増加、8050問題等） ・地域活動（自治会活動の停滞、子供会の解散、災害時の見守り） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 ・移動カフェ、出張相談会、住民が集まれる場 ・団体同士の連携（社協、地域活動支援センター） ・行政が地域団体の活動を見守る、支援する
グループ3 大綱4 子育て・ 教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の制限（オンライン対応が困難な年齢層も、活動が再開できない、活動拠点閉鎖、活動がなくなったことによるストレス、つながりの希薄化による閉鎖的な思考） ・連携が難しい(NPOと学校)、協働できる場が不足 ・不登校過去最多、子供の自殺過去最多 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と市民、また市民公益活動団体の横のつながりの強化、活動の質の変化の見える化 ・イベント実施、居場所づくり、市民参画の場
グループ4 大綱6 都市形成 大綱7 都市魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・活動拠点不足、市民への情報伝達 ・若者の参画（40歳代～60歳代中心のまちづくり、若者や子供に吹田を好きになってもらう必要） ・市民の参画（もっと市民が参画できるように(都市計画、市の政策方針)） ・デジタル環境への対応の遅れ(施設、スキル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と団体との連携強化 ・団体同士の連携支援(市民活動団体、NPO、自治会) ・市民活動団体に所属せずともできる協働のあり方の検討 ・行政と民間の人事交流

総括

【課題】・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動拠点の閉鎖や不足、オンラインによる活動の限界、人数制限、活動目的の見直しなど、様々に制約があり、活動が十分にできていない状況にあるという意見が多くありました。

・協働という側面からは、市民公益活動団体と市の連携の難しさや協働の更なる必要性に対する意見が多くありました。

【協働しながら進めたいこと】

・市民と行政の協働に向けた仕組みづくりについて、連携強化や交流できる場づくりについて意見が寄せられました。

・また、今後の課題解決に向けて、市民参画の場づくり、情報の相互共有、広報活動の必要性についても意見がありました。